

# 平成26年度事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

## 1. 《平成26年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. 《基本方針》

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。措置施設として社会的役割を果たせるように努める。

## 3. 《長期目標》

ゲストが年齢を重ね、どのような状態になっても、この終の棲家で「自分らしく」1人の人間としての誇りをもって生活できるような環境をつくる。

### <施設年度目標>

#### ①レジェンド（伝説）ケース6件

レジェンドケース6件という数字はクリア出来た。その内、1件は法人内で2位を頂く事が出来たが、残念なケースも2件あった。この一年、生活リハビリに重点を置き取り組んでだ。自立ゲストが恥骨骨折で介助が必要となり、自信喪失によるストレスで、自力排泄や言葉が出難くなるケースがあった。「何としてでも元の母親に戻したい」「リハビリさせたいから病院に移る」との申し出があったが、「病院より、此处で元の元気な姿に戻って貰いたい」との職員の思いもあり話し合った。リハビリの計画と実施、関わりを増やし言葉を引き出す、レクリエーション、学習療法、園芸療法、お手伝い依頼など出来る事は殆ど行った。家族様は、日に日に良くなっていくのを見ておられ、感謝の言葉を頂け信頼関係も出来た。しかし、後もう少しというところで転倒され、痛みなどにより中断することになった。一時、職員のモチベーションは下がったが、諦めずに「どうしたら良くなるか」を前向きに考え、職員とゲストが「必ず元気になれる」と信じて、続けていく事が大切であることを感じた一件である。

#### A) 人生5Sを推進していく

養護の特徴として、ご家族や親族と疎遠になっていたり、何らかの事情で独りであったりと様々な事情で入所されている方が多い。ご家族との関係の修復、また、ご自身の身の回りの整理、万が一の場合にどうされたいかなど、やり残しや悔いが残らないようにとの思いで、ゲストと関わっている。ご家族との修復に関して、自然と連絡が取れなくなったケースは交流がもてるようになったが、深い事情があった場合では連絡することも強く拒否されることが多い。支援員やゲストの思いだけでは、立ち入れないケースがあり難しさを感じている。

行事などの際、ご家族に参加して頂き喜んで頂いたこともあったが、お呼び出来ないゲストとの差は大きく、「これで良かったのか」と未だに答えが出ないでいる。ゲストのために何が出来るか、関わっていく私たちが家族に代ってサポートし、ゲストが穏やかに少しでも楽しいと思えるように努めていきたい。

B) QOLの向上を図る

養護は元気な方から介護を必要とされる方まで、心身の状態は様々で個人差は大きい。また特徴として長患いをされるゲストも少ないことが上げられる。現在、自立されていたゲストも高齢に伴うADLの低下が顕著に見られるようになり、行動範囲も狭まれてきている。出来る限りレクリエーションやクラブの活動、おやつ前の散歩や体操の機会を設けてきた。

次年度は職員によるゴム体操なども予定しており、ゲストと一緒に楽しみながら運動出来るようにしていきたい。また行事やレクリエーション、行事、外出の機会も出来る限り取っており、ゲストにとって大きな楽しみの一つになっている。介護が必要になっても、出来る限りゲスト個人の意思を尊重し、普段通りに生活できるようにサポートすることがQOLの維持に繋がると考える。知識や経験の少ない若い職員が多いフロアであるが、皆でゲストへの思いを共有するべく話し合いを多くとっていきたい。

C) チーム力の強化を図る

新設特養、ケアハウスへ職員4名が異動し、それに伴い若く経験のない職員4名が入職した。中堅職員が少なく、知識や技術の浅い職員が多いフロアになったが、一から人材育成に取り組むチャンスとなった。新人職員もようやく業務に慣れ、落ち着きが見られてきた。

2月よりフロア内で高齢者虐待防止研修や不適切ケア、認知症の理解、排泄などゲストの尊厳に関わる研修を実施している。ゲストに対して敬語で話そうと努力し、丁寧に対応しているのが伺えるようになってきた。専門技術や知識は後々自然と身についてくるので、次年度は特にスピーチロックや不適切ケアを職員間で話し合い、マナーや接遇の向上に繋げていきたい。

★養護老人ホームにおいては、特定施設対象者だけでなく、要支援、自立されているゲストに対しても、出来る限り「個別」の推進に向けて取り組む。特に重度化を防ぐために、介護予防や自立支援のための体制を整えていく。措置施設として一人一人の生活の営み全てに関わりを持ち、心身共に健康で心豊かに生活出来るように支援していく。

★大慈吉祥園利用者数（定員70名）（女性46名、男性24名） H27年3月末現在

年 性	年								合計
	65～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～95	96～100	101～105	
女	1	3	5	9	13	7	6	2	46名
男	1	7	2	6	6	1	1	0	24名
合計	2	10	7	15	19	8	7	2	70名

最高年齢	101歳	最少年齢男	67歳	女	69歳	平均年齢	84歳	6か月
------	------	-------	-----	---	-----	------	-----	-----

★要介護度状況

H27年3月末現在

項目	男	女	計
その他（非該当）	2	8	10
要支援1	2	5	7
要支援2	2	1	3
要介護度1	8	14	22
要介護度2	2	7	9
要介護度3	5	4	9
要介護度4	2	7	9
要介護度5	1	0	1
合計	24名	46名	70名

#### 4. 《栄養科》

##### <目標>

##### ①食事面から身体的自立を支援する

- A) 食事形態アセスメントシートを活用し、他職種で評価決定し情報を共有する。
- B) 食事形態アセスメントシートの項目を見直し、更新する。
- C) 目標を共有し、担当職員から情報発信できる環境を作る。

##### ②食生活の質を向上

##### A) 各フロアと厨房の調整

- ・情報収集と他職種との意見交換を行う。
- ・各部署の食事部門と情報を共有する。

##### B) ゲストの嗜好にあった食事計画の実施

- ・ゲストのメニューアンケート結果から食事計画を実施する。
- ・各フロアの特色を生かした食事計画を継続して実施する。
- ・食事行事を継続する。日常の食事にも取り入れる事で、刺激ある食事サービスの機会を増やす。

食事カンファレンスについて、年度前半は手順を確認しながら取り組み、年度後半はシートを有効に活用することで、口腔衛生状態や姿勢などの問題点が明確になり、その結果、食事形態アップに繋がっている。しかし、担当職員から情報を発信するシステムは出来ておらず、システムを構築する事が次年度の大きな課題といえる。また、入院により食事機能レベルが低下するゲストも多く、退院直後にアセスメントを行い、状態の把握に努めている。考える力や形態維持の必要性を栄養科として、各職員に指導、教育したい。

食事行事では、実施に向けて事前に厨房と打ち合わせ、調整は出来ている。施設内で感染症が蔓延したため、新年会では嗜好調査を元に企画した食事行事も、委託業者の協力もあり日程を延期することで、計画通り実施することができた。

嗜好調査の結果や検食簿を基に食事計画を進めており、昨年度よりもゲストにとって満足度の高い行事となるよう、企画立案、計画・運営を行っていると感じる。今後もゲストの嗜好に添えるよう、食事摂取状況の観察やゲストへの声掛けを増やし、食事計画を立案していきたい。

##### <月間行事食>

行事食	内容
誕生会	月1回、予定通り昼食で特別食、間食はケーキを提供。
毎月1日のお知らせ	毎月1日の赤飯と天ぷら盛り合わせに固定。
おやつ作り	月2回間食を4～5名のゲストと作り提供。
スナック狸	月2回、夕食後アルコール提供日として料理は3品から選択。
お好み焼き	月2回、昼食でアルコール提供日として実施。
美味しいお茶の日	週1回、間食時に2種類のお茶から選択。
間食選択	週1回、2種類から選択。
コーヒー喫茶	週1回、3種の飲物から選択。
バイキング	月2回ゲストが選択する方式。
汁物作り	月2回、昼食時に3～4名のゲストに作っていただき提供。

<年間行事食>

月	年間行事	内容（主となるメニューを記載）
4月1日	もちつき	園内行事として実施した餅つきを楽しんでいただき、紅白餅をつくり参加されたゲストへおしるこを提供した。
4月3日	花見	松花堂のお花見弁当と、フロアでエビフライを揚げ、でき立てを提供した。ゲストより大変好評であった。
4月9日	バイキング	嗜好調査で人気であったおでんでバイキングを実施した。8種類の具を提供し、人気であった。
4月23日	バイキング	人気である揚げ物を献立に取り入れた。
5月11日	母の日	間食に手作りイチゴケーキの提供を行った。
5月14日	バイキング	中華バイキングを実施した。ラーメンはフロアで茹でて、トッピングを選んでいただき、でき立てを提供した。
5月28日	バイキング	検食簿より好評であったピラフを献立に取り入れた。
6月11日	あったかソパン	前日も好評であった“あったかソパン”を行った。温かいままで提供するために、配膳時間を調整し、焼き立てパンを温かいまま提供した。職員が各テーブルをまわり、4種類のパンを準備した。
6月15日	父の日	間食に男性ゲストへノンアルコールビールとおつまみの提供を行った。
6月25日	バイキング	2種のカレーバイキングを行った。ゲストからも好評であった。
7月7日	七夕	フロアで天ぷらを揚げ、天ざるそばとして提供した。いつもの巻き寿司とは違うカルフォルニアロールも好評であった。
7月9日	バイキング	人気の具たくさんちらし寿司と串揚げで実施した。普段より大きく三角形に切ったスイカも好評であった。
7月23日	バイキング	4月に行ったおでんバイキングとは具材を変えて実施した。
8月9日	夏祭り	ご家族を招待して夏祭りを実施し、露店でカレー、たこ焼き、フライドポテト、チョコバナナ、アイスクリーム、飲み物を準備した。
8月13日	バイキング	フロアで天ぷらを揚げた。新メニューのシラスと梅とひじきの炊き込みご飯も好評であった。
8月27日	バイキング	洋食バイキングを実施した。たらこのスパゲッティーは好評であった。
9月10日	バイキング	チャーハン、から揚げ、たこやき、サラダ2種を実施した。
9月15日	敬老	昨年にも好評であった土鍋ご飯の提供を行った。
9月24日	おばんざいバイキング	おかず6品とデザートのおしるこの提供を行った。
11月1日	焼き芋	園庭で炭で焼いた焼き芋を提供した。雨が降りそうな為、テントを3機用意し対応した。
11月12日	おやつ盛り合わせ	3種のおやつの盛り合わせを行った。
11月17日	土鍋ご飯	新米を土鍋で炊飯し、提供した。おかずを秋刀魚の塩焼きにし、季節感を出した。
11月26日	おばんざいバイキング	鮭わかめご飯とすまし汁の他に5種のおかずを提供した。二部制の為、料理が冷めないように実施した。
12月10日	たこせんべい	バイキングが中止となった為、間食時に代替え行事としてたこせんべいを提供し、ゲストからも好評であった。
12月24日	クリスマスバイキング	バイキング形式で実施した。料理を温かい状態で提供する為、時間差で配膳を行った。
1月1日	おせち	昼食におせち料理の提供を行った。

1月7日	七草粥	昼食に七草粥の提供を行った。
1月11日	鏡開き	間食にぜんざいの提供を行った。
1月28日	おでんバイキング	おでんは7種類の具を用意し、土鍋で温めながらアツアツを提供した。
2月3日	恵方巻き作り	初めての試みであったが、ゲストの笑顔も見られた。
2月11日	新年会（土鍋ごはんと刺身）	1/21 実施予定であったが、館内でインフルエンザが流行し2月に延期になった。刺身はゲストからも好評であり、見た目も豪華で大変喜ばれた。土鍋ご飯もスムーズに実施、提供できた。
2月25日	串揚げバイキング	ゲストの前で串揚げを揚げた。
3月3日	ひなまつり	間食にひなあられの提供を行った。
3月25日	洋食バイキング	鮭パイ包みやチーズハンバーグの洋食プレートを実施した。見た目も豪華であり、ゲストより好評であった。

## 5. 《看護部》

### <目標>

『人生最期の時を安らかに迎えられるよう尊厳を守り、本人の生き方を尊重したエンドオブライフケアを実践する。』

- ①身体機能の衰弱による褥瘡発生を防止する。
- ②本人や家族の意思を尊重できるよう、気持ちに寄り添ったグリーフケアの充実に取り組む。

大慈弥勒園に記載。

### <年間業務>

<週間診療表> 大慈弥勒園に記載。

## 6. 《理学療法科》

### <年間計画内容>

自立されているゲストが多い為、日常生活レベルの向上が最優先であり、生活リハビリ等を用いることで、廃用性によるレベル低下の防止を図っていく。また、診療所と連携し、緩和治療の充実を図り、肩こり・腰痛等の軽減に努める。

### <実践目標>

#### ①個別機能レベルの維持

##### A) 廃用性によるレベル低下の防止（疾患等によるもの以外）

- ・日常生活リハビリの充実
- ・生活レベルの向上
- ・現場介助対応の徹底

##### B) 緩和治療の充実

緩和治療の充実に関しては、対象ゲストへの実施は出来ており充実が図れたと思われるが、対象人数の増大には至らなかった。全体的に見ると、隠れた慢性疾患を持っておられるゲストの抽出までには至らなかった為、達成されたとは云えない。

生活リハビリに関しては、現場職員への提言をする事で廃用性によるレベル低下を最小限に抑える事が出来た。また、現場職員の介助対応等に関しても、リスクマネージメント・OFF-JT を通じて提言・指導出来た。

### 7. 《委員会活動》

### 8. 《衛生管理》

### 9. 《相談苦情の対応》

☆大慈弥勒園と同様

10. 《入浴》

曜日	昼入浴	夜間入浴
月・火・水・金・土・日	15:30～17:00	18:45～21:00
火・金 (男性・女性)	10:00～11:45/13:00～15:00	

★くつろいだ雰囲気の中で楽しく入浴できるような支援を行っていく。

- ・月2回、四季折々の変わり湯を提供。(事前にポスター等で掲示する)
- ・仲の良い方との入浴、BGMを流す、壁画を楽しむ等。

入浴はグループ分けを行い45分間、仲の良いゲスト同士が雑談をしながらゆっくり入浴して頂けるようになった。職員もゆとりを持ってゲストの状態の観察や見守りができており、入浴中の事故もなかった。

11. 《職員会議等》

頻度	会議名		
月1回	正副施設長会議	処遇会議	主任会議
	職員会議	各担当会議	会計会議
随時	ケアカンファレンス	医務部会	事務部会

会議に関しては職員会議・処遇会議を月2回実施した。経験の少ない職員が多く、処遇計画とケアプランの違いが分からないこともあり、評価も日常生活の様子などに留まっていた。処遇計画・ケアプランに沿ったフォーマットを作り練習したことにより、観察・計画書の統一を図れ、会議がスムーズに運ぶようになった。月2回の会議だけでは間に合わない事も多く、下半期後半よりグループワークによる15分間会議を取り入れるようにした。次年度はこのミニ会議を増やし、職員の意見や考えを反映させていきたい。

12. 《クラブ活動》

行事名	頻度	人数	講師等	行事名	頻度	人数	講師等
レクリエーション	毎日(グループ毎)	5～10名	職員	テーブルカラオケ	週2回	20名	職員
シルバー体操	月8回(月・水曜日)2部分け	40名	村越先生 浦波先生	折り紙	月1回	2名	外部
華道	月2回(隔週)	10名	段先生	ニコニコツアー	随時	3名	職員
絵手紙	月1回	20名	シルバーカレッジ	体操 嚙下体操	日3回	全ゲスト	職員
大正琴・編み物	各月1回	6名	職員	麻雀	不定期	10名	職員
ビデオ鑑賞会	第1・3土曜日	30名	職員	料理	月1回	7名	職員

★ゆとりのある多様な活動

- ・行事、クラブ活動、レクリエーションを実施し、生活が単調にならないよう刺激と生活の潤いを持って頂く。また、四季を感じながらの生活が実現できるよう心がける。

①行事

- ・花見、ひな祭りや端午の節句、柚子や菖蒲湯、夏祭り、クリスマス等の行事で季節を感じらる行事を提供する。(行事食と職員の出し物をトータルで企画し一日楽しめるようにする。) また、プチ旅行等の外出の機会を年4回以上設ける。

## ②クラブ活動

- ・ゲストが主体的に参加し、他ゲストとのふれあいや、生活に張り合いが持てるような活動の場にする。

## ③レクリエーション

- ・写真展、壁画、昭和史等を見ながらの散歩等の運動量をアップさせる。
- ・季節毎の大壁画を作成。
- ・レク係りが中心となって実施。記録と評価を取り、内容を充実させ継続させる。
- ・認知症の悪化防止、改善・維持のため、園芸・学習療法や回想法を積極的に取り入れた援助方法を活用、効果的な介護予防に努める。
- ・認知症の支援に当たっては、その症状の背景や思いを知り、寄り添った支援を目指す。

行事に関して、早い計画を立て栄養科との連携を取りながら実施できた。ゲストにとって行事は、職員の出し物や行事食等、楽しみの一つである。次年度も、より楽しんでもらえる企画を立てていきたい。クラブ活動は例年通り実施できた。レクリエーションに関しては人員配置が難しいこともあり、準備はするがゲストと一緒に出来ないことも多かった。現在、タイムテーブルの見直しを行っている。

### 13. 《年間行事》

月	年間行事名	月	年間行事名
4月	お花見(園内) ボーイスカウト慰問餅つき大会	10月	プチ旅行(美味しいもん食べよう旅行)
5月	母の日お祝い会	11月	にこにこ保育園交流会招待
6月	ろうごの日、外食ツアー(回転寿司)、父の日お祝い会	12月	つぐみ保育園慰問、クリスマス会
7月	七夕	1月	正月遊び、書初め、初詣(諏訪神社)、新年会
8月	夏祭り(地藏盆)、夏祭り(吉祥園)	2月	節分、バレンタインデー(おやつ)
9月	大慈園秋祭り、つぐみ保育園慰問、敬老の日お祝い会(喜寿・米寿)、秋の彼岸法要、にこにこ保育園お月見会	3月	雛祭り、ホワイトデー(おやつ)、春の彼岸法要

#### 毎月の定例行事

誕生者会食(第3木曜日)、お誕生日会(第3月曜日)、スナックたぬき(第1・3木曜日)、お好み焼(第2・4日曜日)、健康チェック(体重・血圧測定)(月末)、コーヒー喫茶(毎木曜日)、ゲスト話し合い(第2火曜日)、買物ツアー・にこにこツアー(毎週月曜日)、おやつ作り・汁作り(各2回/月)、バイキング(2回/月)、料理クラブ(1回/月)、理髪(第2月曜日)、おやつ選択(毎週日曜日)、おいしいお茶(毎週月曜日)、変わり湯(2回/月)、学習療法(3回/週)、園芸療法(1回/月)
--

年間行事	時期	反省等
餅つき大会	4月1日	2階フロアで実施することとなる。大勢のゲストに参加頂き、盛大に出来た。きな粉餅・ぜんざいなど「とっても美味しかった」と感謝の言葉を沢山のゲストから頂いた。
花見	4月2日	昼食は厨房チーフの唐揚げ、天婦羅と揚げたてを提供した。おやつは園庭でゲストと職員がお抹茶をたて美味しい団子を提供した。桜の下で職員による「花笠音頭」を披露した。

ボーイスカウト慰問	4月6日	歌とゲストを巻き込んだゲーム・板遊び・折り紙を披露して頂いた。
母の日お祝い会	5月11日	ゲストの子供様にカードを書いて頂く企画を行った。家族様がおられないゲストには職員からのメッセージをお渡しした。突然の家族からのメッセージでびっくりし涙を出されるゲストもおられた。
父の日お祝い会	6月8日	「仕事帰りの居酒屋で一杯」をテーマに昔の良き時代風に飾り、ビールにおつまみなど提供出来た。
寿司ツアー	6月 全員参加	6月に1ヶ月に亘り、8グループに分けて回転寿司に行った。仲の良い方通しがお腹一杯食べられ、雑談を楽しまれた。
七夕	7月7日	全員参加で飾りを作り、笹飾りも沢山のゲストにお手伝い頂いた。出し物ではゲストにも参加して頂き、織姫・彦星の劇をして頂いた。
夏祭り	8月9日	家族様に参加して頂く予定であったが、台風で警報が出たため、ご家族の参加は中止となった。露店など盛り沢山の行事が提供できた。
花火大会	8月12日	園庭での吉祥園花火大会を実施した。希望者は園庭に出て頂いた。アイスクリームを食べながら打ち上げ花火を見たり、線香花火では童心に帰り沢山の笑顔が見られ、楽しい時間を過ごされた。
お盆の法要	8月13日 ～15日	恒例の盆供養、雨天ではあったが、16名の方が参加された。迎え火8/13 送り火8/15 お供えをし、供養される方も多い。
つぐみ保育園慰問	9月11日	園児による太鼓、歌、肩たたきなど披露を受け、拍手喝采であった。子供と触れ合うのが一番嬉しい様子見られる。
敬老のお祝い会	9月15日	職員出し物、エイサーなど披露した。全員にプレゼントをお渡しした。また喜寿・米寿の方にはお花もプレゼント出来た。
道頓堀パラダイス	9月16日	5名のゲストが参加。「楽しかった。有難う」との声を頂いた。
大慈園秋祭り	9月21日	2階職員の出し物は「組み体操」を行った。沢山の拍手を頂いた。その他、沢山の出し物に拍手喝采だった。
彼岸法要	9月22日	20名のゲストが参加され、手を合わせられていた。
プチ旅行宝塚歌劇	10月2日	7名のゲストが参加。会場が暗く階段が高めだったため、見守りを慎重に行った。参加者は感動され、また、見に行きたい希望があり。
ワイン城と陶芸	10月6日	4名のゲストが参加される。陶芸では真剣に取り組まれていた。焼きあがった物が送られて来た時は感動されていた。
姫路城散策と御座候	10月8日	5名のゲストが参加世界遺産となった姫路城を散策される。長い距離を歩かれたが疲れた様子も見られず、「良かったわ」と元気に帰園。
王子動物園	10月9日	7名のゲストが参加される。ゆっくりと園内の動物を見て回られる。「可愛いね」と連発、癒され満足された様子見られた。
ランチクルーズ	10月16日	8名のゲストが参加される。天候に恵まれ、神戸の街並みをゆっくり眺められる。船内の食事「美味しかった」と喜んで頂いた。
どうぶつの国	10月22日	7名のゲストが参加される。以前の花鳥園である。動物の種類も増え、ゆっくりと動物を見て回られる。癒された様子。
オリエンタルホテル	10月29日 10月30日	二日間に分けて12名のゲストが参加される。美味しいバイキングを食べて頂いた。車椅子の方が多かったが、「美味しい肉」という事に集中した。
園内食事会	10月19日 10月26日 11月6日	「どこにも行きたくない」と言うゲストに対して、豪華な仕出し弁当を提供した。忘れていた方も多く、目の前に出て来た弁当に「うわ～すごいね」と声に出す方もおられた。
木下サーカ	11月5日	希望者を募り、17名のゲストが参加される。車椅子の方が多く、会場



ス	11月10日 11月17日	が真っ暗で、トイレにお連れするのが、階段などがあり困難であった。 ゲストは見るもの全部に奇声を出し、拍手もいっぱいされた。
にこにこ保育園交流会	12月11日	5名のゲストが参加される。子供たちと触れ合い癒されておられた。 子供たちをにこやかに見ておられた。「楽しかったわ」と話される。
つぐみ保育園慰問	12月17日	子供たちにクリスマスの慰問を受けられる。歌やハンドベルの披露を受け、楽しいひと時を過ごして頂いた。
クリスマス会	12月24日	慰問で「クリスマスソング」「昔の歌謡曲」の披露を受ける。 クリスマスケーキは美味しい物を選んだこともあり、大好評だった。
初詣	1月2日	参加の希望を募り、諏訪神社に初詣に出かけた。3班に分けて行ったが、皆さん真剣に祈願されていた。
節分	2月3日	昼食は職員が巻きずしを巻いて直接提供した。そのままかじる人、一口大に切る等、様々で大慌てしたがゲストからは喜んで頂けた。鬼に扮した職員へ沢山豆を投げ、子供のように楽しみ笑いがあった。
ひな祭り	3月3日	昼食はお寿司を提供。出し物ではゲスト全員に折り紙の桃の花を折って頂き、集めて大きな桃の木を作り、大壁画にして談話室に飾った
春の彼岸法要	3月22日	18名のゲストが参加される。車椅子の方も多く参加される。

### 13. <リスクマネジメント報告>

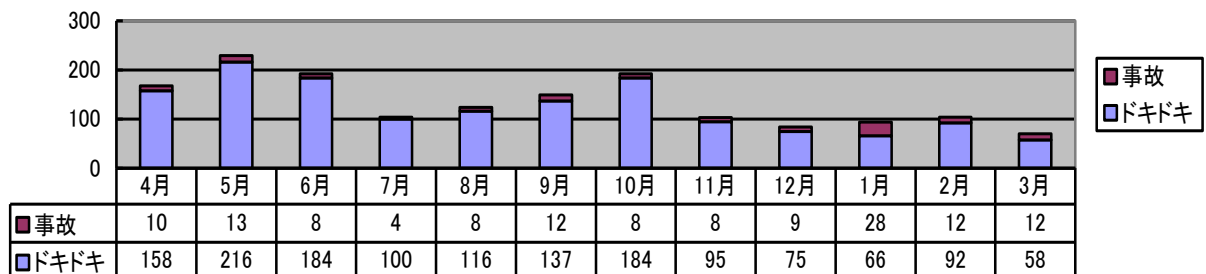
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

#### ①報告件数

##### ○26年度報告件数

昨年度に比べ、事故件数は45件減となった。介護度の高いゲストが亡くなる、特養へ移動されたことで事故・ドキドキ共に大幅に減少している。事故後すぐに対策を立てているが、類似事故は減っていない。ドキドキ件数は夜間のセンサー反応が殆どであるが、センサー対応のゲストが減った事により、昨年度より1801件減となった。

26年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1,612件	131件	1,481件



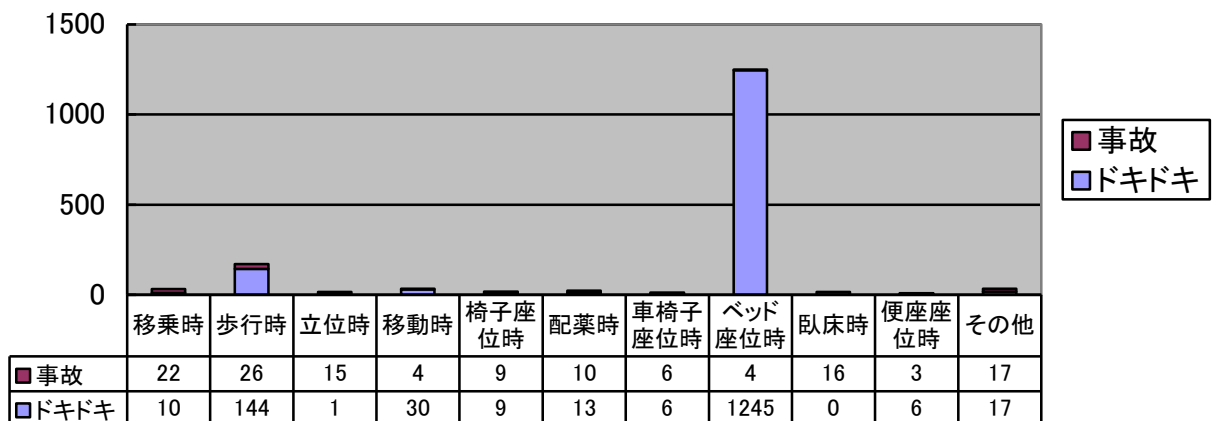
#### ②発生場所別件数

事故・ドキドキを含め、夜間の居室内でベッドからの転倒・滑落、トイレでの移乗の際の座り損ね、歩行時のふらつきなどによる事故が多かった。自立のゲストの転倒も増えてきている。既往症の悪化や高齢に伴うADLの低下が原因であるが、徐々に行動範囲も狭くなってきている。



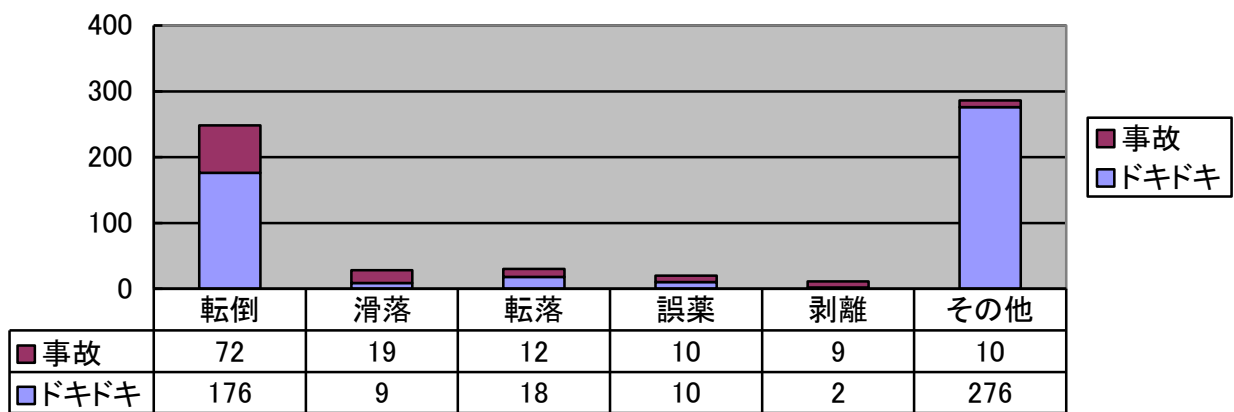
### ③発生状況別件数

インフルエンザが蔓延した1月は事故件数が最も多く、28件となった。熱発の為足元がふらつき、1日に4回転倒させるゲストもおられた。感染者対応を1名から2名に増やし対応したが、センサーで駆け付けた時には既に転倒・滑落されているケースが多かった。



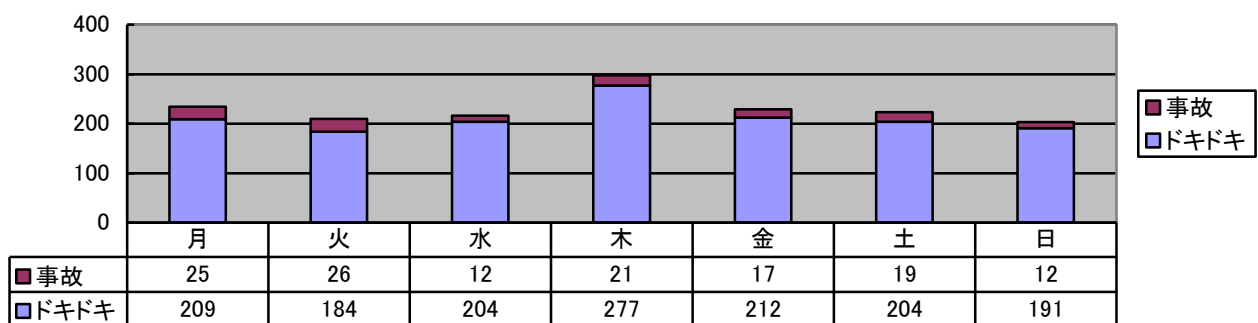
### ④発生内容別件数

誤薬は10件と依然として多い。看護職員との受渡しの時点で朝と夕の薬をボックス入れ間違え、そのまま服用させてしまったり、入所時期の近い方(新入所)同士を間違え服用させたなどあった。服用して頂く直前の確認を怠ったことが原因である。昼食後薬と外出カードを一緒に置くことで、外出時の薬渡し忘れは減ってきた。口から出た(手の平から落ちた)薬が食堂や居室内から見つかるケースも増えている。今後もダブルチェックと飲み込みまで確認することを徹底していく。その他、ゲスト同士の口論で暴行を受け打撲する、黙って散歩に出かけ帰れなくなって捜索願いを出すというケースもあった。



⑤曜日別件数

曜日に関しては、職員が少ない日曜日が少ない。特に木曜日が多いが、華道や絵手紙の少人数のクラブがあり、一人職員が配置に付き、見守りがし難い状況がある。月曜日・水曜日は体操があり、リスクの高い方も参加されているため、見守りがし易くなっている。慰問やクラブ活動で混雑した際の擦れ違いざまの剥離もあったがゲストが集中し込み合った場所では特に気を付けて見守りを行っている。

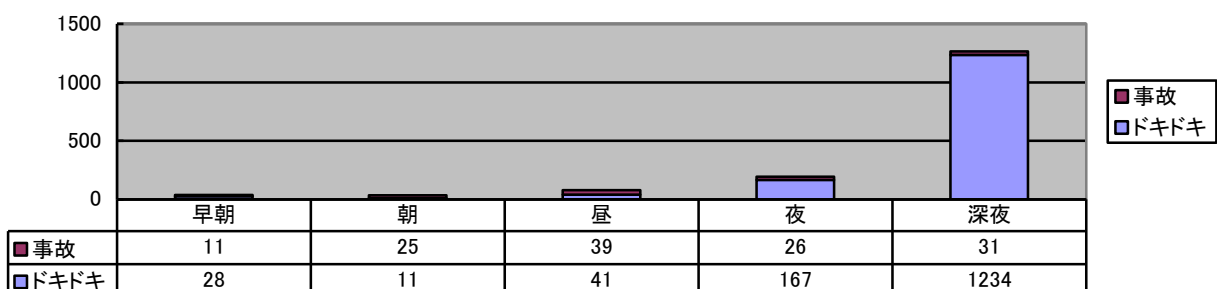


⑥時間帯別件数 ※割合→全体に占める割合

早朝 4:00~6:59    朝 7:00~11:59    昼 12:00~16:59  
 夜 17:00~22:59    深夜: 23:00~3:59

時間帯では11時~17時が最も多い。居室内の事故が圧倒的に多いが、談話室や廊下など、業務をしながらの見守りのため振り返ると転倒されていたりで、十分に見守りが出来ていないのが現状である。次に夜間帯の事故が多い。夜間帯は一人が休憩に入ると、一度にNCやセンサー反応が重なる事も多く、リスクの高いゲストを優先させているが、自己不覚知により職員が訪室するまでに自ら動き転倒されるということも多かった。

○ドキドキの時間帯



⑦まとめ

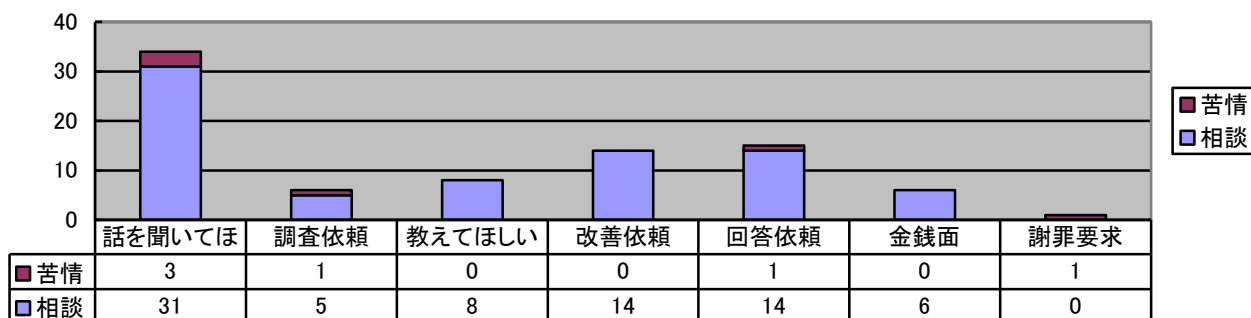
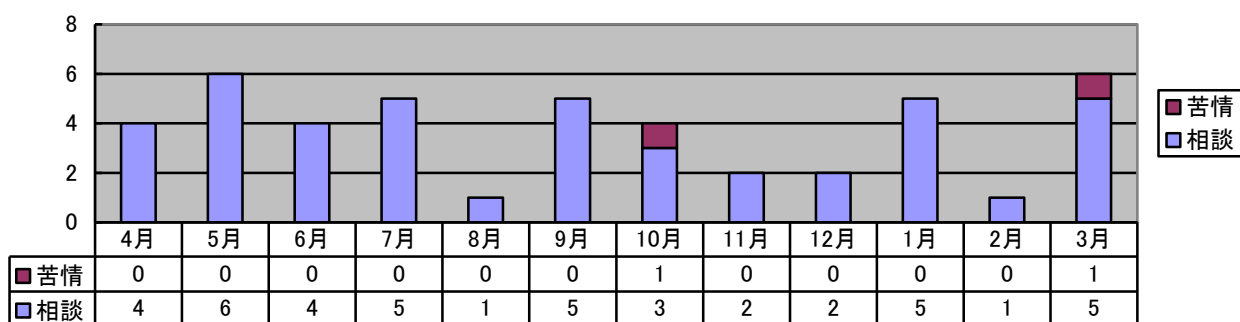
事故内容は圧倒的に転倒が多い。眠剤服用後、足元がふらつき転倒を繰り返していたゲストに関して、服薬しなくても眠れることを確認、中止することでふらつきもなくなり転倒がなくなった。また靴の踵を踏んで歩行されているゲストなどしっかり靴を履いて頂くように声掛けを行うようにしている。シルバーカー歩行のゲストは方向転換などの際にバランスを崩すことも多く、見守りや言葉掛けを行い注意喚起している。職員一人一人が目配り・気配りをし、ゲストのリスクの把握と気付きを増やすことが転倒を減らしていくことに繋がる。対応策を職員全員で話し合い、情報を共有できるように体制を整えていきたい。

1 4. < 苦情・相談結果報告 >

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

26 年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	45 件	2 件	43 件



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

毎年変わらず要望が強く、年間で数件相談があるゲストもおられたが、前年度に相談が多かった食事席変更の相談事は減った。ゲスト同士のもめ事も昨年よりはかなり減った。相談内容の全体の 40%は職員が対応したことによる説明不足や申し送り不足等の対応の悪さが原因となっていた相談であった。午後の申し送り時に見守り体制を取っている為、夜勤者と日

勤リーダーなど数人しか申し送りに入っていない事も理由に挙げられる。メモを取る、直ぐ引き継ぐ、直ぐケースに入力するなどの癖付けが必要と思われる。

○まとめ

職員間での情報の把握・共有不足が原因となっており、今一度情報の共有について見直しが必要である。特に重要事項等はラインやメールで職員に送っているが、それに頼り日誌を読まなかったりすることもある。また「これは誰かがするだろう」と安易に放っておいたり、気が付きが少なかったり等で、小さなミスや忘れに繋がっている。夜勤者⇄日勤者がお互いに業務がスムーズに行えるよう配慮したり、チームでカバーし合えるような組織作りが必要である。経験の浅い職員が多く、知識や専門的技術はまだまだであるが、次年度はゲストに対して「丁寧に対応する」、「ゲストの話がきちんと聴ける」事をしっかりやっていきたい。またあまり表面化していないが、自立したゲストが密かに抱えている「ゲスト同士の悩み」というものがあり、時間を作り、こちらから思いを吐き出す機会を作っていく必要があるとも感じている。

15. <<職員構成>>

施設長	生活相談員	主任支援員	看護師	栄養士	事務員	介護支援員
1名	1名	1名	1名	1名	2名	1名

16. <<総括>>

下半期後半は多数の職員が部署異動することもあり、新人が立て続けに入職した。困難なケースも出たこともあり、新人育成、人員配置の問題、チーム作り、体制の整備等、いろいろな問題を考える機会となった。今やるべきことをやり、一つずつ解決していこうとしている。中堅職員が少なく専門知識や技術が浅いチームではあるが、現在、研修や話し合いを多く取り、少しずつ改善もみられる。次年度は話し合い協働できるチーム作り、職員間・ゲストに対してのマナー強化、報連相を徹底した管理体制の強化に集中し全力で当たっていきたい。